

「“主婦パート”は変わったか」

第5章 非正規雇用のなかの“主婦パート”

労働調査協議会
主任調査研究員 後藤嘉代

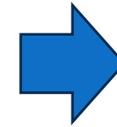
“主婦パート”は変わったか

●日本における“主婦パート”

女性非正規に占める“主婦パート”：52.5%（出所：「就業構造基本調査」2022年）

既婚女性非正規に占める割合（出所：同上）

	パート・アルバイト	派遣労働者	契約社員・嘱託
2022年	82.3%	4.5%	9.9%
2002年	86.5%	2.7%	7.4%



現在もパート・アルバイトは既婚女性の中心的な働き方。なぜ、“主婦パート”という働き方を”を選択するのか。

「女性既婚・パートアルバイト」（＝“主婦パート”1,025件）と「女性既婚・契約派遣等」（146件）との比較から、現在の“主婦パート”像を確認する。

1. “主婦パート”の属性

- 連合総研「2022年非正規雇用調査」に回答した“主婦パート”の属性

	“主婦パート”	既婚契約・派遣等
平均年齢	48.3歳	46.3歳
大卒以上の割合	16.4%	21.9%
主な業種	①卸売・小売業 ②医療・福祉 ③サービス業	①サービス業 ②製造業 ②医療・福祉
主たる仕事の週35時間未満(%)	83.9%	44.5%
配偶者加入の年金の被扶養者(%)	52.6%	13.7%

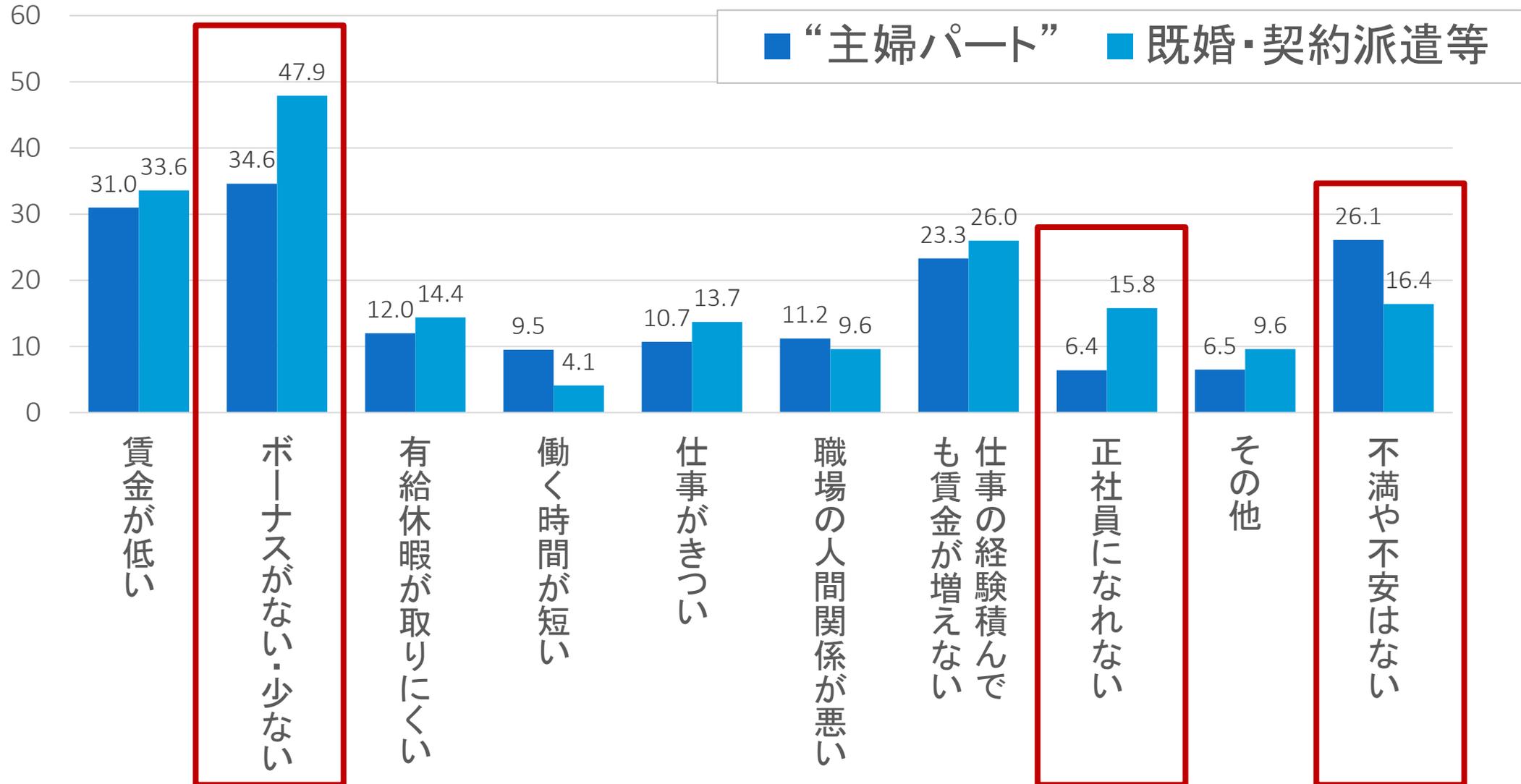
従来の“主婦パート”のイメージと大きく変わらない。同じ既婚女性でも契約・派遣等とは属性が異なる面もある。

2. “主婦パート”の働き方

	“主婦パート”	既婚契約・派遣等
時給1,000円以上	61.5%	91.2%
正社員と同じ内容の仕事	57.4%	73.3%
正社員と比較して「賃金格差は低く かなりの格差がある」	30.1%	42.1%
正社員の転換希望	17.5%	33.6%
同一労働同一賃金ルールを「認知し ていない」	71.5%	58.2%

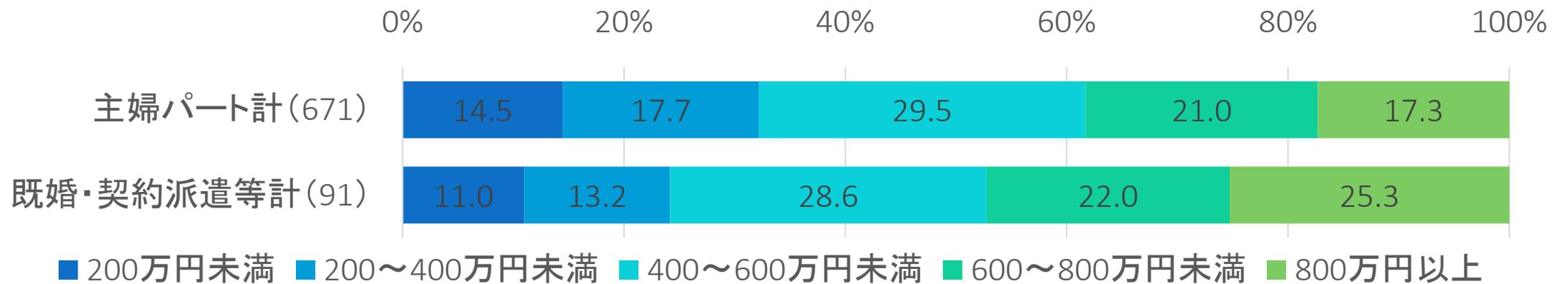
既婚契約・派遣等と比べて時給額が低い層が多い一方、賃金等に対する不満は多くなく、正社員と比べた低い賃金をある程度受け入れているように見える。正社員へのキャリアを想定していない層が多い。

● 仕事に対する不満や不安(%)



3. “主婦パート”の家族的責任

- 「自分の賃金が世帯収入の半分以上を占める」—8.8%
- 世帯収入の水準 既婚・契約派遣 > “主婦パート” > 女性配偶者なし、男性非正規



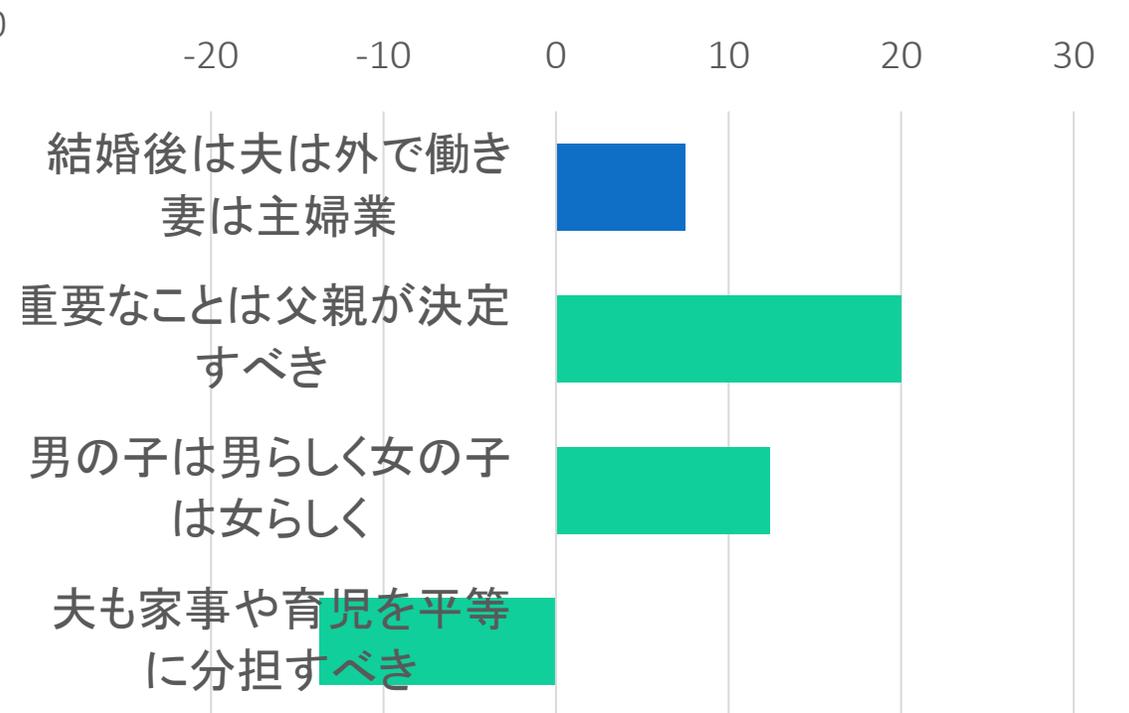
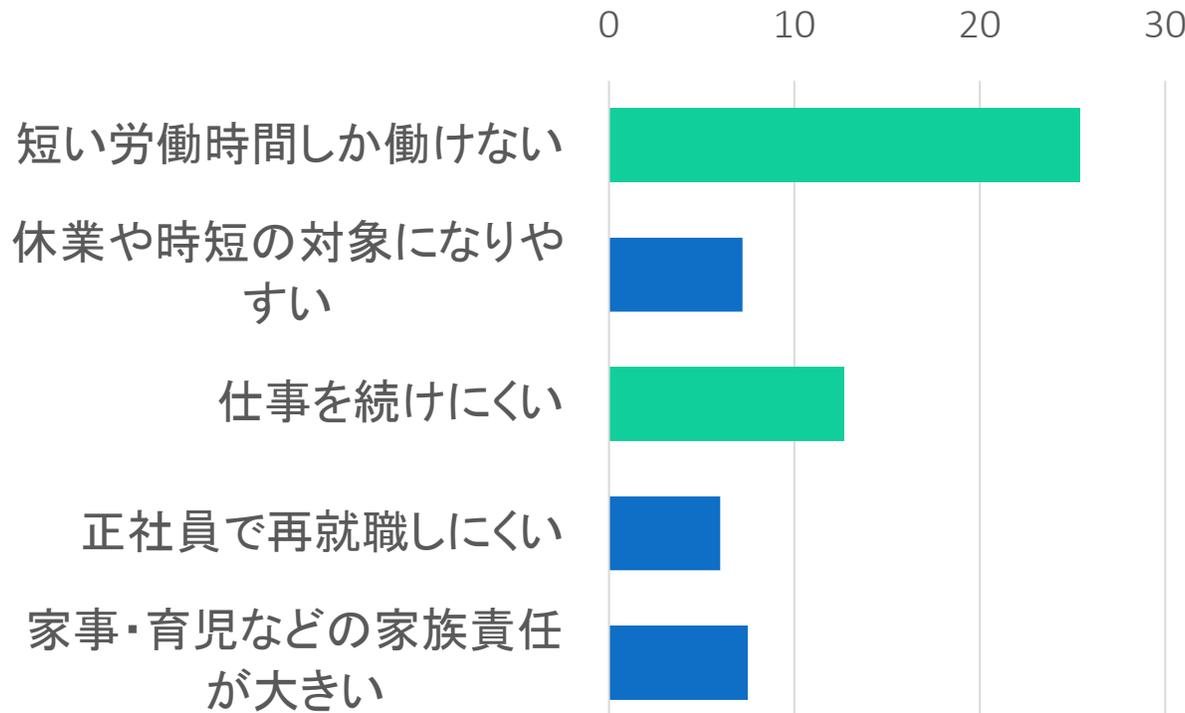
- 家事・育児・介護が働き方に「影響している」—67.9% (既婚・契約派遣は59.6%)
ただし、家族内での家事分担率は既婚・契約派遣とは変わらない。

“主婦パート”は家事・育児・介護を中心的に担いながら、夫の収入を基盤に働いているが、既婚・契約派遣に比べると世帯収入は高くない。

5. “主婦パート”と性別役割分業意識

●女性がおかれている状況
(指数: “主婦”パート－既婚・契約派遣)

●家族や子どもに関する考え方
(指数: “主婦パート”－既婚・契約派遣)



“主婦パート”は自身が考える女性の働き方(=従来の女性の就業スタイル)を念頭に現在の働き方を選択しているのではないか。

これからの既婚女性の働き方

- 結婚・出産後も就業継続する女性が増えたなかで、既婚女性の働き方は現在も“主婦パート”が中心。
- “主婦パート”を選択しなかった既婚・契約派遣は、“主婦パート”に比べて正社員に近い働き方をしており、非正規雇用の働き方に対する課題認識を持つ。
- 同じ既婚女性のなかでも、“主婦パート”と既婚・契約派遣との間には女性の働き方、家族に対する考え方に違いがある。“主婦パート”という選択は、自身の性別役割分業意識に基づいた「女性の働き方」が念頭に置かれているのではないか。
- 既婚・契約派遣との働き方に対する意識の違いから、「既婚女性＝“主婦パート”」という一面的な見方では実態把握が困難になる。